

## (6) プログラム委員会報告

プログラム委員会  
委員長 相磯 秀夫  
(慶応義塾大学理工学部教授)

お早うございます。ご紹介いただきました慶応大学、相磯秀夫でございます。私は、本国際会議のプログラム委員長を務めさせていただいております。

プログラム委員会を代表いたしまして、本委員会の活動の経過ならびに本国際会議のプログラムにつきまして簡単にご報告申し上げます。

昨年、つまり1983年4月に、このFGCS'84の開催が決まって以来、我々、プログラム委員会を組織し、活動を始めました。具体的には、論文の公募、会議プログラムの立案から始めました。1983年の8月に論文の公募を開始いたしまして、今年、1984年4月中旬に、論文の公募をしめ切りました。その後、直ちに査読にはいり、約1か月半の査読を経まして、6月の中旬に論文の採録を決定いたしました。会議の主な討議課題は第五世代コンピュータ研究開発に密接な関係のある、次の五つの分野に集約させていただきました。

第一の分野は、論理型プログラムの基礎理論、第二の分野は、論理プログラム言語とその方法論、第三の分野は、新世代コンピュータのアーキテクチャ、第四の分野は、新世代コンピュータの応用、そして第五の分野は、新世代コンピュータのインパクトにしばらせていただきました。

論文の提出は予想を超えて多く、29カ国から、206件の多くにおよびました。論文の査読に関しましては、12カ国、236名の有識者、レフェリーにご協力をお願いいたしました。査読は、原則として、論文一件につきまして、日本のレフェリー1名、外国のレフェリー2名をお願いいたしました。論文の数が予想以上に多く、レフェリーの皆

様方には多大なご苦勞をおかけいたしました。

この席をお借りし改めて御礼を申し上げます。

最初の案では、採録論文の発表は、一件あたり40分を予定し、全体で約40件の論文の採録を決めました。しかしながら、集まった論文の質は、極めて高く、そして興味ある話題にあふれていましたので、我々の論文の採録の数を増やすことにいたしました。発表時間の短縮、つまり、一件あたり30分に短縮すると同時に、夜の9時に至るまでのセッションを新設しセッション数を増やし、最終的には62件の論文を採録することになりました。その内訳を申し上げますと、第一の理論の分野では応募論文が40件、採録論文は13件、第二のプログラミング言語の分野は、応募論文52件、採録13件、第三のアーキテクチャの分野は、応募論文46件、採録20件、第四の応用分野は、応募論文63件、採録15件、第五のインパクトの分野は、応募論文5件、採録1件です。

また、テクニカル・セッションの構成に際しては、第一・第二の分野を代表いたしまして、英エジンバラ大学のR.Burstable教授に、第三分野、アーキテクチャの分野を代表しまして、北海道大学の田中譲助教授、そして第四の応用の分野を代表いたしまして、米Xerox Palo Alto Research CenterのD.G.Bobrow博士に招待講演をお願いいたしました。また、インパクトに関するセッションに関しましては、一論文の発表を含んだミニ・パネル・ディスカッションという形式をとらせていただきました。

テクニカル・セッションの最後は、並列処理と新世代コンピュータと題するパネル・ディスカッ

ションでしめくくることにいたしました。一方、4日間のセッションの構成に関しましては、今日11月6日と7日の2日間を全体会議とし、ICOTの研究開発成果の概要を報告していただくことにいたしました。残る2日間、11月8日と11月9日を一般採録論文の発表、つまり、テクニカル・セッションに割り当てをいたしました。

ICOTの研究成果の報告は、それぞれの責任者であります各研究室長に報告をお願いしてございます。

また、全体会議の招待講演としまして、日本の実情を最もよくご存知の米ハーバード大学のE.F.Vogel教授に一般講演を、そしてPrologの発明者でございますフランスのマルセイユ大学A.Colmerauer教授に技術講演をお願いしてございます。

先ほど、元岡実行委員長からもご挨拶がございましたように、我々の第五世代コンピュータ・プロジェクトの影響を受けて、各国でナショナル・プロジェクト、あるいはそれに類する研究の開発が活発になってきております。その実情をご紹介いただくと同時に、各国間の国際協力の問題を討議して頂くために、パネル討論、「各国の研究開発事情と社会への影響」をもうけました。座長には前ACM会長D.Brandin氏をお願いしてございます。

以上、プログラム委員会の活動、ならびにプログラムの構成につきましてご報告申し上げます。

最後にご多忙中のところ、多くの関係者にご協力いただきましたことを、改めて申し上げます御礼にかえたいと思います。

特に論文のレフェリーの方、そしてご多忙中にもかかわらず講演、ならびにパネル討論のためにおいでいただきました方々、セッション・チェアマン、そしてプログラム委員の諸氏、そして事務局の皆様方に、この席をおかりして御礼を申し上げます。

遠路はるばる日本においでいただきました皆様

方、そして日本の方々も、この国際会議の場を有意義な情報、ならびに意見の交換の場にしていただき将来の研究のかたへにしてほしいと期待しております。

以上、簡単ですが、プログラム委員長としての報告を終わらせていただきます。

ありがとうございました。